

公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン 評価委員会 議事録

1. 日 時

令和4年12月5日（月） 午後6時30分から午後7時50分

2. 場 所

藤岡市役所 中庁舎3階 大会議室

3. 出席者

(1) 評価委員会委員

藤岡市 副市長	高橋 厚
高崎健康福祉大学健康福祉学部医療情報学科 准教授	木村 憲洋
藤岡市区長会 会長	秋葉 正道
藤岡市国民健康保険運営協議会 会長	反町 清
群馬医療福祉大学 看護学部 教授	源内 和子
藤岡市鬼石商工会 会長	林 直男
藤岡商工会議所 副会頭	守口 謙二
藤岡多野医師会 会長	栗原 透（新任）
関東信越税理士会 群馬県支部連合会藤岡支部 支部長	小林 仁

(2) 病院長

公立藤岡総合病院	塚田 義人
藤岡市国民健康保険鬼石病院	工藤 通明

(3) 事務局

公立藤岡総合病院	
参事兼経営戦略室長	横坂 政彦
企画財政課長	新井 恵介
企画財政課長補佐	齋藤 功志
企画財政課グループリーダー	萩原 和美
藤岡市国民健康保険鬼石病院	
事務長	秋山 弘和
参事兼事務課長	桜井 崇裕
事務課長補佐兼庶務係長	櫻井 力
事務課医事係長	古市 広美

4. 欠席者

経営管理部長	新井 滋
--------	------

1 開 会 （午後 6 時 3 0 分開会）

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

皆様、こんばんは、本日は公私ともにお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。定刻前でございますが、お集まりのようですので、これより公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会を開会させていただきます。私は、本日の進行をさせていただきます鬼石病院事務課長の桜井と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、資料の確認をさせていただきます。資料につきましては、事前に郵送させていただきました。本日の会議で使用する資料は、次第、公立藤岡総合病院改革プラン、藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン、公立病院経営強化プランの資料です。不備なものはありませんでしょうか。

2 委嘱状交付

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

続きまして、次第の 2、委嘱状の交付をさせていただきます。委嘱状につきましては、本来ならば、公立藤岡総合病院の管理者、鬼石病院の開設者であります藤岡市長より交付すべきものでありますが、本日は、出席できませんので、当委員会の委員長であります高橋副市長より委嘱状を交付させていただきます。

委員長が席を回りますので、お名前を呼ばれた方は、ご起立頂き、委嘱状をお受け取り下さい。栗原透様。

【高橋委員長】

委嘱状、栗原透様。公立藤岡総合病院改革プラン・藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会委員に委嘱します。令和 4 年 1 1 月 2 1 日、多野藤岡医療事務市町村組合・管理者・新井雅博。藤岡市国民健康保険鬼石病院・開設者・新井雅博。どうぞよろしくお願いいたします。

【栗原委員】

よろしくお願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

ご着席下さい。ただいま委嘱状を交付させていただきました新任の委員をご紹介します。栗原透様です。藤岡多野医師会の会長であります。医療関係の代表者として委嘱をさせていただきました。今後ともよろしくお願いいたします。

3 あいさつ

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

当委員会委員長であります、藤岡市高橋副市長よりご挨拶申し上げます。

【高橋委員長】

みなさんお忙しいところ、遅い時間にも関わらず、コロナ禍での開催となりましたけれどもご参加いただきありがとうございます。先ほど医師会長の栗原透先生に委嘱状の交付をさせていただきました。よろしく願いいたします。コロナ禍のなか、藤岡総合病院、鬼石病院とも医療現場が厳しいなか、塚本院長、工藤院長、栗原先生はじめ医師会の先生方にはワクチン接種を進めていただきありがとうございます。厚くお礼申し上げます。公立病院が最後の砦としていただいているわけですが、先般、医師確保の関係で群馬大学の齋藤病院長へ陳情に行ってまいりました。藤岡総合病院、鬼石病院とも頑張っているということで、群馬大学の若い医師も派遣され頑張っているとお褒めの言葉をいただきました。当委員会は改革プランの評価分析をするということで、みなさんの忌憚のないご意見をいただいて、議論をしていきながら、今後の病院運営に生かしていければと思います。今日はありがとうございます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

続きまして、公立藤岡総合病院の塚田病院長より、ご挨拶をお願いいたします。

【公立藤岡総合病院長 塚田】

藤岡総合病院病院長の塚田と申します。日頃より当院をご支援いただきありがとうございます。本日は、令和3年度の改革プランの実績評価が中心になります。

2020年から新型コロナウイルスが本格流行し、通常診療も大きな影響を受け、一時期は病床の稼働も激しく落ち込みました。一昨年と比較すれば徐々に回復の兆しも見ますが、一つの病床をコロナ感染患者の受け入れ専用にして、多くの患者さんを受入れなければならず、通常診療との両立に苦しんでいるところです。そんな中でも感染管理を徹底し手術を行い、地域医療支援病院として、積極的に紹介患者を受け入れ、状態の安定した患者さんを地域の先生に逆紹介をするなど役割を果たしているところであります。何よりも診療の質を落とさぬように努力しています。

感染拡大前の状態に回復するよう今後も計画を推進していきたいと思っていますので、本日は委員皆さんの忌憚のないご意見をよろしく願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

続きまして、鬼石病院の工藤病院長よりご挨拶をお願いいたします。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

鬼石病院の工藤です。令和3年度の実績について評価をしていただけるということで、よろしく願いいたします。当院もコロナ禍におきましてその対応やワクチン接種などについてお

こなっており、高齢者施設への対応に追われております。経営はなんとか数字的には、維持できるようなものになっておりますので、ご検討いただいて評価していただきたいと思っております。以上です。

4 議 題

(1) 改革プランの説明及び進捗状況について

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

続きまして、次第の4議題となります。

病院改革プランは、新公立病院改革ガイドラインに基づき作成されたもので、点検評価を年1回以上行う事とされております。プランは平成28年度に当初の計画を策定し、その後、次のプランの策定についての指針が国より示される令和5年度までの「継続計画」を、昨年度策定し、この会議で説明させていただきました。本日、委員の皆様には、令和3年度の実績について評価をいただきます。なお、会議内容は公表する事になっておりますので、この委員会の会議の内容は録音させていただき、議事録を作成後、それぞれの病院のHPで公開することとなりますので、あらかじめご了承願います。

それでは、これより議事に入りますが、設置要綱第6条第1項により、これ以降は、委員長に議事進行をお願いしたいと思います。それでは、高橋委員長よろしく願いいたします。

【高橋委員長】

それでは、進行役を進めさせていただきます。着座にて議事を進めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議題(1)、改革プラン令和3年度実績の説明及び進捗状況について、藤岡総合病院、鬼石病院の順で、事務局から一括で説明をお願いします。

【公立藤岡総合病院 企画財政課グループリーダー 萩原】

公立藤岡総合病院・企画財政課・萩原と申します。よろしくお願いいたします。着座にて説明させていただきます。

新公立藤岡総合病院改革プラン令和3年度の説明をさせていただきます。

病床は、急性期病床295床、回復期リハビリテーション病床48床、地域包括ケア病床47床、人間ドック5床、感染症病床4床の、合わせて399床で稼動しております。回復期リハビリテーション病床と地域包括ケア病床を効率的に稼動することにより、地域の急性期医療機関として、疾病に対して適切な医療を提供しております。急性期病床の単価は、新型コロナウイルス感染症患者の病床確保の影響もあり69,000円を上回っております。

病床種別については、地域医療構想に沿う形で運用し在宅支援に向けた診療の強化を図っております。

それでは、3年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。

1 ページ 下段の「④医療機能等指標に係る数値目標」をご覧ください。「1) 医療機能・医療品質に係るもの」の中の「救急患者数」は、計画に対し 327 人の減、「全身麻酔の手術件数」は計画に対し 65 件の増となりました。計画をほぼ達成することができ、新型コロナウイルス感染症拡大前の令和元年度と比較しても同水準となってきました。今後も地域の中核病院として、現在運用している急性期病床 295 床の稼働率を高め医療の質の確保に努めてまいります。

「紹介率」は計画に対し 1.3 ポイント減の 63.1%、「逆紹介率」は 2.3 ポイント増の 87.1% となります。地域医療支援病院としての承認要件を維持するため、今後も紹介率、逆紹介率を高めて行くよう努めて参りたいと考えております。

「2) その他」の中の「医療相談件数」は、総合相談室のサポートにより計画に対し 350 件の増となっております。

「患者満足度」は、令和 2 年度までは、病院独自のアンケートを使用し、集計結果をもとに改善活動・活用をしていました。さらなる向上を目指し、令和 3 年度は、「日本医療機能評価機構の患者満足度調査」を開始しました。そのため、アンケート内容が変更となり満足度が令和 2 年度までと大きく変わりました。入院部門と外来部門で調査内容が分かれ、外来部門の「診療待ち時間」と「診療時間」について、評価が低い結果となりました。

本調査は、ベンチマークが可能であり改善・活用の支援を受けることができます。本調査を活用し、患者本位の医療を担保するため、今後も引き続き患者サービスの向上を意識し、職員一丸となって努力していきます。

2 ページをお開き下さい。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。

まず令和 3 年度の各実績数値ですが、「1) 収支改善に係るもの」の中の「経常収支比率」は、98.2%と計画に対し 2.9 ポイント増。「医業収支比率」は、92.3%と計画に対し 2.2 ポイントの増となりました。

「2) 経費削減に係るもの」の中の「診療材料費対医業収益比率」は、計画に対し 0.1 ポイント増、「薬品費の対医業収益比率」は、計画値どおり、「職員給与比率」は、0.8 ポイントの減、「100 床当たりの職員数」は、0.8 ポイント減となりました。

「3) 収入の確保に係るもの」の中の「1 日当たりの入院患者数」は、計画に対し 4.1 人の減となり、新型コロナウイルス感染症拡大前の元年度実績からは、34 人の減となっております。「1 日あたりの外来患者数」は、計画に対し 2.3 人の増、元年度実績値からは、89.8 人の減となっております。

「4) 経営の安定性に係るもの」の中の「現金預金残高」については、前年度比 1 億 2,233 万 3,000 円の増となっております。

「入院単価（急性期）」は、計画に対し 598 円の減、元年度実績からは 4,500 円の増となっております。「外来単価」は、計画に対し 12 円の増、元年度実績からは 3,350 円の増となっております。

続きまして 4 ページをお開き下さい。

1. 収支計画（収益的収支）についてです。3 年度の実績値が赤字で表記してあります。経常収益は上から 10 行目太線のところですが、118 億 9,900 万円で前年度比 7 億 2,800 万円の増とな

りました。一方で中段にあります経常費用は、121億1,700万円で前年度比、4億5,000万円の増となり、経常損益では2億1,800万円の損失、純損益でも6億300万円の損失となりました。要因としては、旧公立藤岡総合病院解体工事費用となります。

5ページになります

2. 収支計画（資本的収支）についてです。

収入は3年度、企業債の借り入れ2億円、構成市町村の企業債負担金5億2,800万円、計7億9,600万円。支出は、医療機器の購入費等の建設改良費3億2,500万円、企業債償還金11億3,400万円の計14億5,900万円となっております。

以上、誠に簡単ではございますが、説明とさせていただきます。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 事務課長補佐兼庶務係長 櫻井】

続きまして、鬼石病院の改革プラン継続計画を、鬼石病院事務課庶務係長の櫻井が説明させていただきます。着座にて失礼をいたします。

資料2をご覧ください。

まず、近年の経営状況につきましては、平成20年度から赤字に転落し、29年度まで赤字を計上。30年度にはプラス164万円と10年ぶりの黒字計上となりましたが、令和元年度には6,200万円の赤字を計上。

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症に関連する補助金等もあり484万円の黒字、令和3年度につきましては、群馬大学名誉教授の倉林先生が地域連携医療センター長として就任したこと、また外科の常勤医を1名補充できたこと、さらに5月より当院始まって以来の整形外科の常勤医が就任したこともあり前年度に引き続きの黒字計上とすることができました。

それでは、1ページの上段でございます。病床数につきましては、一般病床52床と療養病床47床の合計99床を維持しています。一般病床では地域包括ケア病棟入院料をいち早く取り入れ、現在は全床で算定しており、主に、公立藤岡総合病院からの急性期後の患者の受入れや在宅復帰への支援に力を入れています。診療科目におきましては、内科、外科、整形外科をはじめ計10科を標榜し、総合的な医療を維持・提供しており、専門的な医療については基幹病院である公立藤岡総合病院へ紹介する体制をとっています。

続きまして、「(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化」についてですが、当院は、奥多野地域及び埼玉県北部地域を診療圏とする病院として、地域住民が安心して生活できるよう、医療技術や設備の充実を図るなど、医療環境の整備に邁進してきました。

また近年は、国が推進しております「地域包括ケアシステム」の構築に向け、高齢化の進んだ地域医療を担う病院としての役割を果たすべく、地域包括ケア病棟入院料の導入や、在宅復帰を支援するための訪問看護・訪問リハビリ事業の拡充、介護系施設への往診、急性期を担う公立藤岡総合病院や退院後に関わる高齢者施設及び居宅介護などとの連携の強化等、様々な取り組みを継続実施しております。

それでは、続いて令和3年度における医療機能等指標についての実績値を報告させていただきます。

1ページ 下段の「④医療機能等指標に係る数値目標」をご覧ください。

在宅復帰率では、計画の目標値に対し、-1.7ポイント、医療機関からの入院件数では1.5件の増と目標値を上回りました。医療機関からの入院については、地域医療連携室を中心に、より一層周辺の医療機関との連携を強化していきたいと考えます。

訪問事業では、看護については-8.3件、リハビリでは-10件、通所リハビリにおいては、-14.4件それぞれ目標値を下回りました。在宅支援事業については、引き続き拡充に努めたいと思っています。

患者満足度については、昨年と同様でした。このアンケートにより患者の貴重な意見が得られ、当院の理念である「患者本位の医療」の遂行のため、職員一人ひとりの意識を新たにしたところです。今年度以降、目標値を上回るよう、努力を重ねているところであります。

2ページをお開き下さい。

(2) 経営の効率化について説明させていただきます。

まず令和3年度の①経営指標に係る各実績数値ですが、「1) 収支改善に係るもの」の中では経常収支比率が100.2%で計画値どおり、医業収支比率は83.9%で-2.1ポイント計画値を下回る結果となりました。

2) 「経費削減に係るもの」の中の「診療材料費対医業収益比率」は、計画に対し0.5ポイント増加、「薬品費の対医業収益比率」は、0.3ポイント増加、「職員給与比率」は、2.3ポイントの増加、「100床当たりの職員数」は、2人の増加となりました。

「3) 収入確保に係るもの」の1日当たりの入院患者数では87.1人で-1.1人。「1日当たりの外来患者数」では計画値より-0.8人となりましたが、令和2年度の実績値より0.6人の増加となっています。

「病床利用率」では87.9%で-1.2ポイントと計画値を下回りました。

続きまして3ページをお開き下さい。

(3) 再編・ネットワーク化についてですが、これまで述べてきたように、厳しい経営状況の中、持続した地域医療を提供するには、まずは、人材の確保が前提となります。ここ数年、医師や薬剤師等の補充に苦慮しているところでありますが、現在、公立藤岡総合病院、群馬大学病院より医師を派遣していただき、病院機能の維持を図っている状況です。

続きまして4ページをお開き下さい。

1. 収支計画（収益的収支）についてです。

経常収益は上から10行目太線のところですが、12億7,400万円で前年度比4,200万円の増となりました。経常費用は、中段の太線のところですが、12億7,200万円で前年度比4,500万円の増となり、経常損益では200万円のプラス、純損益でも同じく200万円の黒字となりました。

続きまして5ページをお開き下さい。

2. 収支計画（資本的収支）、についてであります。中段にあります支出の欄、令和3年度の建設改良費は1,400万円です。建設改良費の内容は、医療機器の購入費であります。購入した主な器具等は、移動型簡易陰圧装置・乾式臨床化学分析装置・膀胱用超音波画像診断装置・診療情報管理システム等であります。

施設整備については設備の長寿命化を図るためエレベータの改修工事を行いました。

続きまして6ページをお開き下さい。

それぞれの経営指標をグラフ化したものとなりますが、青が計画、赤が実績となりますのでご覧ください。以上、誠に簡単ではございますが、説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

【高橋委員長】

ありがとうございました。事務局からの両病院の説明が終わりました。委員の皆様からのご意見、ご質問をお願いしたいと思います。限られた時間ですが、それぞれのお立場から、全員の皆様からのご意見をいただきたいと思います。

まず、医療経済ご専門の高崎健康福祉大学の木村先生から、ご意見ををお願いします。

【木村副委員長】

お世話になります。資料を拝見させていただいて、令和3年は両病院ともよくて、特に鬼石病院の経営がよくなっているように見受けられます。鬼石病院の在宅復帰率は、地域包括病棟でよろしいでしょうか。それと訪問リハビリは訪問看護で行ったりリハビリは除いていますでしょうか。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

リハビリスタッフが行ったリハビリについてです。

【木村副委員長】

通所リハビリは老健の方は、含まれているのでしょうか

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

通所の方は、病院の外来リハビリになります。

【木村副委員長】

ありがとうございます。あとですね、経営的には問題があるとは私には思えませんでした。ですので、こういった質問だけさせてもらいました。以上です。

【高橋委員長】

ありがとうございました。では、群馬医療福祉大学の源内先生からお願いします。

【源内委員】

群馬医療福祉大学の源内と申します。よろしくお願いいたします。

コロナ禍で大変な状況の中、懸命に未来の看護師を育てておりますが、藤岡総合病院さん、鬼石病院さんには、学生の実習で日々お世話になっております、ありがとうございます。

鬼石病院が人材育成に重点をおいて、群馬大学から地域連携室に倉林先生をお招きしてから

黒字化されたということで、成功をされているんだなああと、人材というのは必要で大切なんだなああと改めて思います。鬼石病院はそういう印象を持ちました。

患者満足度のことで伺いますが、藤岡総合病院の満足度が65%になってしまった調査のことで、日本機能医療評価での所定のバージョンを使ったので2年度からの評価が変わってしまったということで、患者満足度のところはそうそう大きな要因とかなかなかないと思いますが、特に待ち時間が長いというのは永遠のテーマなのかと思います。そこを改善する策を考えることが引き続き必要でないかと思います。去年もお聞きしたかもしれませんが、鬼石病院は去年はコロナの事をお聞きしたと思うんですけども、コロナ補助金もあり、黒字に転じたと伺いましたが、経営の事はともかくコロナの感染対策のことを気になりますので、木村先生にお聞きしたいなあと思いました。

例えば、査定というか機能評価や、厚労省の調査もきたり、そういう時に感染対策はどういった視点でみるのでしょうか。経営には、直接関係ないと思うのですが気になりましたので、お聞きします。

【木村副委員長】

医療監視では、基本的には体制が整っていればよいとなっている。医療法で規定されているものでは、藤岡総合病院は病棟できちっと分けられるのでいいと思いますが、鬼石病院は、老人保健施設もあったりして、コロナの患者さんを受け入れる場合は、非常に厳しい中で続けていく事となるので、医療従事者にとって非常にストレスのかかることだと思います。ここ最近では、第8波では、各病院の感染に気を付けているところですが、クラスターが起きるほど非常に感染力の高いものですので、鬼石病院にとっても2つの病棟できちっと管理していくのは厳しいと予想されると思います。

【源内委員】

ありがとうございました。そういった視点で質問させていただきましたけれども、2病院とも頑張っていたきたいなあと思っています。

【高橋委員長】

それでは、続きまして、医療代表の藤岡多野医師会の栗原会長、お願いいたします。

【栗原委員】

2つの公立病院に長い間の関係も深くて、働かさせていただいた経験もあり、長い間お付き合いしておりますので、内情は存じ上げております。藤岡と鬼石が合併してから藤岡市内には公立病院が2つあり兄弟病院として、今の所よい関係性になっていると思いますが、さらにもっといい関係ができるといいなあ。と思っています。例えば、それぞれがやっている物品購入なんかも、2つでバラバラよりまとめ買いの方が安いと思いますし、大きな医療機関とある医療機関ですね。桐生とかの方ですね。そういう方は全部一括して購入しているとも言いますし、ゆくゆくは、工藤先生も言っていますが、医者不足だけでなく薬剤師不足とか全ての面

で人が不足している、そういったことで藤岡総合病院が兄弟病院なんだからゆくゆくは、鬼石病院の資産をどうにかして、広域自治体の方に含めて、それを藤岡市に置いて、持ち株比率を上げて1つの形態にして、1つになって藤岡総合からローテーションで医師がまわっていく。ただ、僕が勤めていた時、万場診療所と中里診療所がありまして、そこが無医村になってしまったんですね。でそこで、医師が派遣されていて僕が外科医で派遣されていたんですね。そこでなんとか地域全体でやっていたんですけども、そんな感じで2つの病院で協力してうまく行き届くような形で自分のとこだけで、全体を見てほしいと思います。

今医師会も地域医療構想のなかでコロナ前からやっているわけですが、埼玉県とのバランスですね。で、藤岡市だけでは保てないんですね。無理に任せて、藤岡市がドンドンといっちゃうとけんかになってしまうので、これはもう県のレベル、国のレベルで、県同士でやってくれないと、藤岡市の行政の負担が多くなっていくと、これで藤総と鬼石の必要性が増しているような、このプランはコロナが始まる前から始まったプランなんですけれども、コロナになって公立病院がかなりこき使われているんですね。行政がワクチンだって入院のことだって何かというところすぐ公立病院がと、民間病院より先に公立病院がまず、黙って言うことを聞かろうと、くるわけですね。こういった状況がいまだに続いていると、これは国の施策があまりにも無策だと思います。お金をだしているんですけども、あまりにも現実に即していないと。

2つの病院はコロナになりかなり献身的にしているなど、経営面でも検討しているなど、文句をいうなら素人でもいえるんで、プロの目からみてなかなか立派にやられていると思います。患者さんを紹介してもすぐに受け入れてもらえるし、感謝をしています。だからもうちょっと頑張っているとみられる風に思ってもらえればと思います。

【高橋委員長】

いまの栗原委員の意見に対して行政からなにかありますか。

そうすれば、貴重なご意見ありがとうございました。いま、一緒になるには、いろいろな課題もあるんですが、具体的には栗原会長からいただいた貴重な意見を参考にしてですね。経費削減の検討もさせていただいてますし、いま、いただいたように3分の1が鬼石、藤岡総合ともに埼玉県から救急も含めた患者を受け入れています。それについては、群馬県の市長と埼玉県の市長が意見交換をしまして、新井市長からも提案をしております。大きな負担を地域の方々の税金を藤岡総合や鬼石に入れてるものですから、なかなか藤岡市が神川町や上里町に交渉するのは難しいところもありますので、県としっかりと話をしながら、こういった方法でやっていけるのか、医師確保も含めやっていかなければいけないと思っております。貴重なご意見ありがとうございました。

【高橋委員長】

それでは、続きまして、国保運営協議会の反町委員、お願いいたします。

【反町委員】

お世話になります。私が思っていることは栗原先生からも言っていたいたんですが、あと

は、鬼石病院はコロナ禍でも黒字化され、以前から山間地で高齢化のためか患者も減ってきました。先生ならずとも関わる職員が不足されていると聞きましたが、いまは、大丈夫なんですか。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

職員は各職種とも基本的にギリギリではありますが、足りています。1番は医師についてになりますが、医師数については大学からも受けていますので、診療に影響のないようにしています。宿直の先生が来るとなると夜遅くなったり、朝早くなったりと、そのあたりは我々がカバーしているという現状になります。

【反町委員】

藤岡総合病院の満足度ですが、患者さんに聞いてみるとこの数字よりはいい気がすると思います。それと特にリハビリについては有効であると聞いております。以上です。

【高橋委員長】

それでは、続きまして、経営分析の専門家の関東信越税理士会の小林委員、お願いいたします。

【小林委員】

お世話になります。税理士会の小林と申します。藤岡総合病院様、鬼石病院様ともにこのコロナ禍のなかで非常に厳しい状況のなかで、経常収支が改善されているというのは非常に努力の結果だと感じております。鬼石病院様につきましては、昨年度に引き続き経常収支比率が100%を超えていて、すばらしいなと感じております。

今期残高が増えていることで改善の方を対応できていると感じております。あと、鬼石病院様に建設改良費が例年より少なくなっていると思います。今後、修繕とか、機器の入れ替えとか考えていらっしゃるかお聞きします。あと、両病院に関して、令和3年度と今年度にはいつから物価の異常な上昇、今後の経費上昇への検討が出来ているかと思いますが、現状でどのくらいの感触があるのかについてお教えいただければと思います。以上です。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

鬼石病院ですが、建設改良費については例年にくらべ少なくなっております。設備投資については病院の改修、建ててから20数年経っております。空調機が劣化しており、来年度改修工事を予定しています。概ね1億円ほどかかります。

それから、CTの入れ替えですね。それから大きなものとして進めていますのが電子カルテの導入です。鬼石病院については、現在紙のカルテを使っていますが、いま、電子カルテの導入について進めていまして、これが1億円以上かかることとなっております。

それと、もう一点の経費についてなんですけど、ニュースでも取り上げられていますが、電気料が大きく伸びておりまして、例年と比較して1.5倍になっています。このあたりが非常に

苦勞しているところです。以上です。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

藤岡総合病院ですが、物価の上昇により一番大きいのが光熱費で、特に電気料は今年1月から月1千万円だったものが、4月以降1千5百万円から2千万円まで膨らんで、今後3千万を超えるような状況で、今回1億5900万円ほど補正しました。解体工事に伴う輸送に関しても燃料費の影響で増えているような状況です。以上です。

【小林委員】

鬼石病院様のほうで電子カルテの導入を伺いました。是非、藤岡総合病院さんと兄弟病院さんということですので、連携をとりやすいようなシステム導入を選定の理由にして頂ければと思います。以上です。

【高橋委員長】

それでは、続きまして、産業界からの藤岡商工会の守口委員、お願いいたします。

【守口委員】

藤岡商工会会議所の守口と申します。事前にみさせていただきまして、満足度というところで、私なりにいくつか聞いてみました。社員や関係者など聞いてみましたが、藤岡総合病院は非常に良いよと本庄にいくなら藤岡に行くという意見が多かった。

ただ、その中で若い先生とか手術しても2、3か月でどこか出られてしまう。私もお世話になっていまして、その若い先生も2ヶ月ほどよそに出られてしまう。こういったことがマイナスの原因になっているのかなあと、あと入院期間が長いかなという意見もありました。来年の満足度が88%という形で提示されていますので、また形を変えてやるのかなと思いますが、その辺はよろしくお願ひしたいと思います。また、前は駐車場の問題もありまして、管理されている人も案内されている人たちも、よく思いました。それと看護師さんが優しく丁寧で対応が素晴らしいなど、この満足度からするとちょっと違うのかなあと感じました。非常にお世話になってありがとうございます。質問なんですけれども、国の補助金が来年からなくなりましたよという形になるのかなあと、それと長期前受金戻しというのがあるんですが、教えていただけるとありがたいなあと、こういったものは病院さんなら準備されているのかなと気がなるところです。両病院さんとも予定通り達成されていることはすばらしいなと感じました。以上です。ありがとうございます。

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

長期前受金について説明させていただきます。補助金収入がある際に、その年にまとめて収入とするのではなく、減価償却に係る部分を毎年長期前受金として収益として計上していくというものになります。以上です。

【守口委員】

特別損失というものについてお願いします

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

令和4年度の特別損失についてですが、旧病院の解体工事をしていて、固定資産除却費が2億7,500万円、解体工事費が5億1,600万円、土地売却に伴う損失が3億6,000万円となっています。

【守口委員】

ありがとうございます。

【高橋委員長】

それでは、続きまして、同じ産業界からの鬼石商工会の林委員、お願いいたします

【林委員】

林と申します。資料をみまして鬼石病院の満足度が97%で、藤岡総合が計画で88%となっていますが、同じアンケート様式でやっているんですか。違う様式なのでしょうか。藤岡が様式を変えたら、65%に落ちたということで、同じ様式を使ったら鬼石も落ちるのでしょうか。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

満足度には待ち時間というのが大きな要素をしめまして、当院ではそういう点ではいいと思いますが、サービス面では藤岡総合に勝っているとはいえませんので、同じような数字が出てくると思われます。

【林委員】

同じ様式でアンケートをしてもらわないと比べられません。

【高橋委員長】

それについては、検討させていただきます。では、続きまして、市民代表として秋葉委員、お願いいたします

【秋葉委員】

先ほど木村先生のお話にありましたけれども、経営状況も改善されているとのことで、安心しております。藤岡総合の患者のひとりとして非常によく感じております。病院にはいますと駐車場の看板を立てて欲しい、入口がよく分からないと、早速新しい看板を建てていただき、分かるようになりました。ありがとうございました。

(1日当たり外来患者数) 29年度が858人で3年度が667人と191人減少しているが、要因

はコロナでしょうか？

【公立藤岡総合病院長 塚田】

医療機関の機能分担を目的に、2016年度の診療報酬改定に伴い、一般病床400床以上の地域医療支援病院において、他の医療機関からの紹介状を持たずに受診した場合に選定療養費として5,500円徴収しています。さらに2022年度からは、200床以上の病院において、選定療養費が7,700円の徴収となりました。そのため、紹介状を持たない初診患者さんは今後受診しにくくなると思われれます。気軽に外来受診をしにくくなる一方で、患者満足度調査で常に問題となる外来の待ち時間の短縮が図れる可能性があります。こうした事情がありますので、外来患者数の漸減傾向は、決して外来が廃れているというわけではありません。

【秋葉委員】

外来単価ですが、藤岡総合が22,000円、鬼石病院が6,700円とだいぶ差があるのですが、診療している内容とかが違うのでしょうか。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

病院自体の機能が違いますので、抗がん剤の化学療法や日帰り手術など大きな単価の高度医療というものが当院ではできませんし、医療スタッフの人数なども違いますので、それぞれの病院の機能がありますので、差がうまれているということです。

【秋葉委員】

ありがとうございました。

コロナ検査についても日曜日でも検査していただいて、親切にしてもらっていると感じております。ぜひとも今後も頑張ってくださいと思います。以上です。

【高橋委員長】

全員の方から質問をいただきましたが、さらにみなさんからの質問があれば、お願いします。

【木村副委員長】

藤岡総合病院の満足度調査で、65.8%を算出した計算式なのですが、こういった数字がでてこないはずなので、計算式は置き換えるか見直した方が良いかと思います。こんな低い数字はでないはずなので。

【高橋委員長】

ありがとうございました。そのあたりはご指導いただいて見直すことでよろしく申し上げます。

では、(2) 公立病院経営強化プランについて事務局から説明をお願いします。

(2) 公立病院経営強化プランの策定について

【公立藤岡総合病院 企画財政課長 新井】

病院事業を設置する地方公共団体は、各々の地域と公立病院が置かれた実情を踏まえつつ、総務省のガイドラインを参考に経営強化プランを策定し、病院事業の経営強化に取り組む必要があります。

また、経営強化プランは、当該公立病院の地域医療構想に係る具体的対応方針として位置付けることとされていることも踏まえ、地域医療構想と整合的であることが求められます。

1 経営強化プランの策定期間

令和6年度から医師の時間外労働規制が開始されることで、さらに厳しい状況が見込まれるとともに、新型コロナウイルス感染症対応では、感染拡大時に備えた平時からの取組の重要性が浮き彫りとなり、地域に必要な医療提供体制を確保するためには、病院間の機能分化・連携強化、医師・看護師等の確保、働き方改革の推進等の公立病院の経営強化のための取組が急務となっています。

さらに今後、各都道府県において第8次医療計画の策定作業が進められ、その作業と併せて、令和4年度及び令和5年度において、地域医療構想に係る各医療機関の対応方針の策定や検証・見直しを行うこととされているため、地域において各病院が担う役割・機能を早期に調整・確定させていく必要があります。

以上のことを踏まえ、経営強化プランは令和5年度中に策定するものとします。

2 経営強化プランの対象期間

経営強化プランは、策定の次年度から令和9年度までの期間を対象として策定することを標準としています。

3 経営強化プランの内容

持続可能な地域医療提供体制を確保するためには、個々の公立病院が地域医療構想等を踏まえて、地域において果たすべき役割・機能を改めて見直し、明確化・最適化することが重要となります。したがって、経営強化プランには、

- (1) 役割・機能の最適化と連携の強化
- (2) 医師・看護師等の確保と働き方改革
- (3) 経営形態の見直し
- (4) 新興感染症の感染拡大時等に備えた平時からの取組
- (5) 施設・設備の最適化
- (6) 経営の効率化等の各事項を記載することが必要となります。

令和5年度中に作成して6年度から9年度の対象になります。

【高橋委員長】

説明が終わりました。みなさんからご意見をいただきたいと思います。

【木村副委員長】

これから近隣の人口が減っていくと思われれます。一部適用より全部適用ですね。独立してやるリスクはありませんので、人材の採用を考えると全適の方が病院さんは今後動きやすいのではないかと思います。

【高橋委員長】

貴重なご意見ありがとうございました。そこも踏まえて作成をお願いします。みなさんよろしいですか。では、時間も進みましたので、議題の（3）その他ですが、何かみなさんあるでしょうか

【秋葉委員】

先日、倉林先生が講演をなさいました。先生は講演を依頼すればご協力いただけるのでしょうか。健康寿命のお話とかをされたようなのですが。

【藤岡市国民健康保険鬼石病院長 工藤】

倉林先生は、高齢化に対する医療や地域に対する、地元之恩返しをしたいということで活動をされております。健康福祉大やいろいろな施設からお話があれば受けると思います。そういった際は、担当スタッフもおりますので、よろしくをお願いします。

【秋葉委員】

分かりました。ありがとうございます。

【高橋委員長】

ありがとうございました。他によろしいでしょうか

それでは、だいぶ時間もたちました。予定した時間になりましたので、終了させていただきます。熱心な議論、ありがとうございました。

では、議題すべて終わりましたので、議長の役は終了させていただきたいと思います。事務局より、よろしくをお願いします。

5 閉 会 （司会より）

【藤岡市国民健康保険鬼石病院 参事兼事務課長 桜井】

委員の皆様方におきましては、長時間、ご議論いただきまして、大変ありがとうございました。今回いただきました貴重なご意見を大いに参考にさせていただきまして、両病院とも、今後の病院経営に役立てていきたいと思っております。ありがとうございました。

以上を持ちまして、公立藤岡総合病院改革プラン、藤岡市国民健康保険鬼石病院改革プラン評価委員会を閉会とさせていただきます。

本日は大変ありがとうございました。

午後 7 時 5 0 分 閉会
